



 ** チャリンコ旅日記 No.17 **
 ** Resistance Of My Mind 19920515 **

【1989年8/12日から16日 下関市 から 舞鶴市 663Km】

【8月12日(土)】 曇り/晴/曇り 走行距離 106Km
 新前橋駅 → 東京 → 下関市 → 萩市 走行時間 6時7分
 — 電 車 — 自転車

(電 車)	(自 転 車)
3:25 起床 曇り	19:06 下関駅 出る
4:05 自宅 出る	15 休み 電池 ¥1120-
20 新前橋駅 着 ハンジュース¥197-	35 出る 夕食 ¥630-
5:03 出る 新前橋-新下関	58 休み 電池、ハン ¥641-
7:20 東京駅 着 ¥20600-	20:04 出る
19番線	21:39 休み ジュース ¥100-
8:12 博多行き見送る	45 出る 48Km 電池交換
8:36 " 弁当、時刻表	22:45 大津郡日置町 ジュース ¥100-
9:12 " ジュース ¥1070-	52 出る 電池交換
10:12 新大阪	23:19 長門市 曇り ジュース、ヨーグルト
	46 出る ¥202-
12:12 東京駅 出る	8月13日(日)
18:06 小倉駅 着	1:02 萩市 小雨
18:18 出る	07 出る
18:32 下関駅 着 曇り	13 東萩駅 ジュース ¥100-
	30 頃 駅のベンチで眠りに着く
	(萩ステーションホテル) ¥0-

新前橋駅に着いた時、事態の異常に気が付いていたが、東京駅の19番新幹線ホームに踏み込んだ時、その予感現実のものとなった。いつもなら、8時12分の博多行きの新幹線に十分に乗れるはずなのに、ホームは長蛇の列。人の波、波。どこがどうなっているのか、さっぱりわからない。

列に並んでいて不安になり、前の人に聞いたり、列の先頭を探して、どの新幹線を待っているのか聞いたりしていた。そして、時刻表を買ってきて、19番ホームから出る列車を調べ始めた。

8時12分の博多行きにも、9時12分の博多行きにも乗れない。でも、先頭から4m程の所まで来ている。次の10時12分の新大阪行きには乗れる。そして一時間が経ち、電車がホームに入ってきたとき先頭のおばさんグループは、御座に座ったまま動こうとしない。私は、あっけにと取られておばさん達の後ろで立ったまま動けなかった。列は乱れて、人波が乗車口にさっとうした。数分後、ホームにはおばさん達と私が取り残された。なんとなく、惨めな気持ち。次は、12時12分博多行き。まだ、2時間もある。冷却塔の下の水溜まりで水浴びをしているスズメを眺めている。

下関市に着いたのは、夕方6時半。辺りは薄暗くなり、これから萩市まで走ろうと思う気持ちにブレーキを掛けている。今、下関YHに電話を掛ければ、夜中に自転車で走って野宿をするような苦しみを負わなくて済む。しかし、今回の旅は日数が足りない為、夜間走行をする事で達成される。初めからそのつもりで、ちゃんと懐中電灯も用意してある。あとは、私が計画を実行する勇気を持っているかどうかにかかっている。駅前で自転車を組み立てて走り出したとき、自転車はちゃんと萩を目指していた。

下関市街を抜けない内に夕食にしようと思った小さな食堂。なんと、私の嫌いな、恐い恐いテレビを見ていた。「このままでは、夜、走る事が出来なくなる。」おばさんに頼んで、チャンネルを変えてもらった。19時半頃、本格的に走り出した。夜の為景色が見えず、予定では月明かりがあるはずなのに生憎の曇り。何処を走っているのか分からないままに、ただ道なりに走って行く。外灯や家並みも疎らになり、懐中電灯の明かりが頼り。いつもなら、寝ている時間なのに、微かな明かりを頼りに走る自分。道端の窓からこぼれる明かりが、とても暖かそうだ。“ああ、暖かい布団にくるまれて眠りたい…”。家並みの途切れた暗い夜道を独り走りながら、不思議と“恐い”とは思わなかった。研ぎ澄まされた本能が闇夜をしっかりと見つめて、恐怖から逃げる様に走っていた。

夜道を4時間走って、長門市に入った。コンビニエンスストアから漏れる明かりに誘われる様に自転車を止めて店内に入る。人がいる事、明るい事が嬉しくてほっとした。このまま、朝までここにいたい、そうもいかない。萩市まであと20Km。しかたなく、闇の中へまた走り出す。途中で日付が変わり、萩市に到着。パトカーに行き合ったが、別に止められる事もなく東萩駅に到着。小雨がポツポツと降り出していた。今夜の私の宿は、ステーションホテル。ベッドは、ちょっと堅めのベンチ。静かな駅前には、数台の車が泊まっていて中には人がいるようだ。幾らか不安だが、カッパを着てリュックを枕にして、ベンチに横たわる。なかなか寝つけず、人の足音、風の音にさえ集中していた神経も、いつの間にか眠りに着いていた。

【8月13日(日)】 晴／曇り／夕立
萩市 — 浜田市 — 出雲市

走行距離 194Km
走行時間 11時20分

4:20	起床		
5:00	東萩駅 出る	晴	
35	休み	ジュース、ビタミン剤	
41	出る	¥100-	
6:30	須佐駅		
37	出る		
7:42	益田市		
57	休み	寿司、コーヒー、ゼリー	
8:12	出る	¥553-	
55	三隅 休み		
9:03	出る	ｽｰﾌﾟ、ﾍﾞﾐﾝ ¥150-	
49	西浜田 曇り	ジュース ¥200-	
52	休み		
10:00	出る		
11:05	江津駅	ｽﾎﾟﾃﾞﾀﾝD ¥130-	
28	出る		
46	浅利駅	ﾊﾞﾝﾖﾝ、ｼﾞｭｰｽ ¥342-	
12:00	出る	ｶﾝﾅﾒ	
35	温泉津役場	にわか雨	
	雨宿り		
13:25	出る		
14:21	太田市 曇り		
32	休み	ジュース ¥100-	
36	出る		
15:14	休み	ｶﾚｰﾗｲｽ ¥480-	
24	出る		
16:20	出雲駅 曇り 夕立		
	Hotel α+1	¥4800-	
	みやげ	¥12690-	
	夕食	¥1240-	

眠ったのは、2時間位だろうか。辺りがうっすらと明るくなってきている。ようやく、長い不安から解放される。早朝散歩のおじいさんが、隣のベンチに腰掛けて俺に話しかけてくる。駅のトイレで身支度を整えて、朝5時にスタートした。今日は、朝から疲れていて時間の感覚が麻痺して、朝だというのに夕方の様な気がしている。昇り出した太陽は夕陽の様に思えたが、次第に暑さを増し、私は走りながら水筒を口にしてばかりいる。体が、だるい。

昼に、浅利駅という小さな駅に辿り着き、近くの店でパンと缶詰を買って来て駅の待合室で休んでいた。天気は曇り出し、走り出して30分もするとポツツ、ポツツと雨が降り始めた。信号待ちをしていた僅かな間に降り出した雨は、一気に土砂降りになり、私は近くの温泉津役場のガレージに逃げ込んだ。カセットを聞きながらコンクリートの上に横になって休んでいる。見上げる空は、明るくはなっているが、雨は止みそうにない。一時間程雨宿りをしていたが、これ以上ここで時間を無駄にするわけにいかず、小雨になった時を見計らってカッパを着て走り出した。

30分もすると雨は止んだが、カッパを着たまま走る。そして3時過ぎ、出雲市の手前でダウン。お腹がすいて力が入らない。小さなレストランを見つけて、汚い格好で店に入るのを申し訳ないと思いながらも中に入って、カレーライスでエネルギー補給。

4時過ぎ神の国、出雲市に着いてホテルに入ったとたん、外は激しい夕立。

【8月14日(月)】 雨/晴/曇り

走行距離 269Km

出雲市 → 松江市 → 米子市 → 鳥取市 → 走行時間 16時24分
 → 福部村 → 岩美町 → 温泉町 → 浜坂町 →
 → 香住町 → 豊岡市

4:30	一回目起床 雨降り	17:10	休み ハン、ジュース
5:30	二回目起床 雨上がり	22	出る ¥196-
6:40	α-1ホテル出る ¥740-	48	休み 浜坂YH 満員
7:26	宍道町 休み 大雨	53	出る TEL、ジュース ¥110-
40	出る カリーメイト¥200-	18:26	休み ジュース ¥100-
8:15	松江市	32	出る 道を間違える
47	休み 小雨	34	蒲生峠トンネル
9:00	出る カレー ¥390-	39	休み
53	米子市 晴	43	出る
10:03	休み ジュース、アメ ¥301-	55	温泉町 カツどん、ジュース
17	出る	19:28	出る ¥730-
11:14	休み		夜間走行の仕度
20	出る	19:50	浜坂町
46	休み ハン、ジュース、ヨーグルト	20:21	休み 余部鉄橋下
12:00	出る ¥373-	25	出る
13:49	泊村 休み ジュース ¥100-	46	香住町 ジュース ¥100-
57	出る	51	出る
15:20	砂丘展望台	22:11	江野トンネル
35	出る ジュース ¥120-	22	出る
16:43	鳥取市内 ハン、ジュース、ヨーグルト	36	休み カレー、ジュース ¥460-
	¥329-	52	出る
	市内ホテル・旅館 満員	23:04	豊岡駅 ジュース ¥200-
16:52	鳥取市を出ることにする		豊岡ステーション軒先ホテル ¥0-

夢うつつに窓ガラスを打つ雨音が気になっていた。4時に目覚めた時は、カーテンをめくるといく筋もの雨だれが流れ落ちていた。走る気力もなく寝てしまう。1時間後、起きてみると雨は上がっていた。昨日買った朝食用のパンを食べて7時前に出発。しかし、何分もしないうちに雨が降りだし、カッパに突き刺さる様な激しい降りになった。宍道湖の湖岸のドライブインの軒下に逃げ込む。路面を打つ雨しぶきは、私の足を容赦なく濡らし、走り続ける気力を崩そうとしている。そんな

な雨に濡れそうになりながらも、走り出す。

宍道湖の東岸の松江市に入る時には雨は上がり、米子市に入る時には暑い日差しが気になる様になった。今日は、鳥取市まで走る予定。朝の天気とは打って変わって、暑くて暑くて走っていてもだるくなる様な快晴。スーパーでヨーグルトを買ったり、薬局で栄養剤を買ったりしている。鳥取市に近づくとつれ車が渋滞し始め、疲れた私もゆっくりゆっくり走る。泊村の海岸では、海水浴客が戯れ、暑さにバテている私は、一泳ぎしたい気分。鳥取市を抜けて、派出所で教えられた様に走って、あの有名な鳥取砂丘に着いたのは午後三時。砂漠の様なイメージを抱いていたが、ただの砂山。なんのことはない。

砂丘から、市内に戻って宿探しをする。一軒目は、断られた。そして、二軒目も。“何か、変だ？”三軒、四軒。みんな断られた。今日は、何処も満室だという。9軒程探し回って諦めた。市内のスーパーで食料を買って、夜間走行の準備をする。“とにかく、海岸沿いに走って、次の町まで行こう。”と思って走り出す。1時間半も走った頃、道を間違えた事に気付いた。海岸沿いに走るつもりが、内陸に入り込んでしまった。しかたないので、そのまま走って海岸に出る様にした。辺りはすっかり暗くなり、懐中電灯が頼り。月は、雲間に見え隠れしていて役に立たない。そして、いつのまにか見えなくなってしまった。

新田次郎の小説、“孤高の人”の實在の主人公加藤文太郎の故郷、浜坂町に着いたのは20時近かった。これで正規のコースに戻れた。小さな港は夏祭で、小さな打ち上げ花火がポツリポツリと上がっていた。道端に、人が居てくれる事が嬉しい。人の話声が聞こえる事が嬉しい。でも、町はすぐに通り抜け、人も明かりも疎らになり、とうとう自分独り。暗闇の川の音、冷たい空気の淀みにおびえながら、山を上がって行く。途中、道路工事現場がありおじさんが3人程いたので、“こんばんは！”と挨拶をして通る。車も殆ど通らない時間、人がいた事が何故か嬉しい。工事のおじさんも驚いていた様だ。

豊岡の手前の江野トンネルを抜けると、ポツポツと小雨が降りだした。トンネルの出口で自転車を降りて休んでいると、通る車がみんなスピードを落として行く。俺を幽霊か何かと勘違いしているのだろうか。雨の止んだ隙に豊岡駅を目指して、峠を下る。駅の近くの食堂がまだ開いていて、ゆっくりと食事をする事が出来た。今日一日で、これほどゆったりとした時間はなかった。これで、朝まで駅で一晩を過ごさなくてはならない。最後の晚餐といった感じ。

豊岡駅は夜11時だというのに、こうこうと明かりが付いている。それに、人が多い。ホテル、旅館に溢れた人達が集まってきたらしい。今日は、何処でも大変な日なんだ。カッパを着て、駅の外の隅っこへ行って眠りに付く。270Km近くも、一日で走った事は、かつてなかった。長い一日が、やっと終わった。

【8月15日(火)】 曇り／雨

走行距離 94Km

豊岡市 → 久美浜町 → 峰山町 →
→宮津市 → 舞鶴市
(電車) 舞鶴市 → 前橋市

走行時間 5時52

		(電車帰還)	
4:25	起床	12:58	東舞鶴駅 出る
5:40	豊岡駅 出る ジェス ¥100-		前橋まで ¥9680-
6:23	久美浜駅 ジェス ¥200-	15:00	敦賀駅 ¥1400-
28	出る	20	出る 特急雷鳥27号
57	雨宿り	16:50	金沢駅
7:08	出る	20:27	出る 急行指定¥1740-
16	比治山峠		急行能登82号
43	峰山町 カトシ ¥700-	8月16日	
8:04	出る 曇り	3:58	高崎駅 ヤリ川、ジェス
47	天橋立	5:39	出る ¥314-
9:00	出る	54	前橋駅 タクシ ¥1140-
26	休み	6:10	自宅着
30	出る ジェス ¥100-		宅急便 ¥4270-
41	休み		ビール、ワイン ¥830-
45	出る		PHP ¥155-
10:01	雨宿り		サウナ ¥1250-
10	出る 雨降り		てんぷらうどん ¥230-
35	西舞鶴		スリッパ ¥500-
11:00	舞鶴 海上自衛隊基地 休み		ハン、ジェス ¥760-
20	再出発 イスカップ ¥134-		イスカップ ¥134-
32	東舞鶴駅 冷やしうどん¥400-		
12:18	着替え、輪行完了		

なかなか寝つけないと思っていたが、ふと気が付くと辺りは薄明るくなっていた。昨夜、沢山いた人達はいつのまにか居なくなっていた。私は、駅の水道で体を拭いて、一晩お世話になった豊岡駅を走り出す。今にも雨が降り出しそうな空模様。一時間程で雨が降りだした。山間のあばら屋の軒下に逃げ込んで、雨具を付ける。狭いトタンの軒下からのぞく空は薄暗く、雨は止みそうにない。しかたなく、雨の中走り出したが、20分程で雨は上がった。

日本三景の一つ天橋立には、9時頃着いた。さすがに道路が混雑していて、観光名所である事を

物語っていた。しかし、地上から見る天橋立は、ただの松林で写真で見る様な景色にはほど遠かった。

今日はどおした事か、また雨が降り出した。結構強い雨で、途中何度か雨宿りをしながら走り続けていた。しかし、西舞鶴を過ぎて舞鶴市に近づくに連れ、体調に異変を感じ始めていた。雨に打たれながら走っている間に体力を消耗したのか、昨夜の野宿が効いているのか、何故か体が震えだしそうで恐い。ハンドルを握る手の力を抜いたら、一気に体が震え出し、病気になってしまいそうだ。舞鶴の軍港を左手に見ながら、自分と戦っていた。“なんとか、敦賀市まで走りたい。せめて、小浜市まで走りたい。” そんな事を思いながら、何時の間にか歩道の上をゆっくり走っていた。もう、走る気力もなくなり、ペダルを回す脚の動きもゆっくりになっている。そして11時、とうとう交差点で信号待ちをした時、もう走り出す事はなかった。

“ああ、もう駄目だ。体が、震え出している。” 歩道橋の下から道向こうのボーリング場の下の駐車場に逃げ込んだ。腰を降ろしてしばらく茫然としていたが、すぐに体が冷えてきたので着替えをする。幾らか体も温まり、11時20分また走りだしたが、東舞鶴駅へ向かっていた。駅は、ここから10分程の所にある。

小雨の降る駅の改札口の脇で、初めてのリタイアに後ろめたさを感じながらも、自転車の分解をしていた。“また来ればいいさ。元気ならまた来られる。” “無事に帰ることが大切なんだ……。” と、自分を慰めている。いや、リタイアした言い訳をしている。

私の心はすでに、帰郷する気になっていて、自転車を駅前のペリカン便に預けると、12時58分の電車で金沢へ向かった。途中、敦賀駅で特急雷鳥に乗換、金沢駅に着いたのは17時頃。三度目の金沢駅。金沢も私の好きな所。今でも、金沢で買ったキーホルダーを使っている。

20時27分発、急行能登82号。急行の指定席を取って、時間まで金沢市内を散歩する。半日雨に濡れた疲れをサウナで癒したり、食堂でゆったりとビールを飲みながら食事をしたり、3時間の暇潰しをしていた。

急行能登に乗り、翌朝4時、高崎駅に到着。辺りはまだ薄暗い。前橋に向かう電車も動いていない。始発の5時39分まで待たなくては。駅前のセブンイレブンで食料を買って駅のベンチで食べている。夜明けの高崎の街を、カセットを効きながら散歩する。“やけに、静かだ。昼間の雑踏が嘘の様だ。”

最初から、無理な計画を立てていた今回の旅。12日から始まって今日までの4泊5日の中で、ホテルに泊まれたのは1日だけ。2日間駅で野宿。1日は車中。でも、無事に下関市から舞鶴市までの山陰側を走る事が出来た。

家がない不安は、大変なストレスで、“今夜泊まる所がない。” そんな状態が毎日続いたら？……。今回の旅は、私の野宿への挑戦…。

私は、そんな生活をしたいとは思わないが、ときたま寝る事を忘れて、朝まで飲み明かしたりしています。

0814

鳥取砂丘



0815 天の橋立

